

# 公共事業再評価調査

整理番号 H22 - 8

担当部課名	県土整備部 道路課	電話番号	0 1 7 - 7 3 4 - 9 6 5 1
		E-MAIL	doro @pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続 ( 10 年 )	再評価後 ( 年 )	その他 ( )
---------	-----	---------------	------------	---------

## 1 事業概要

事業種別	道路事業		事業主体	県	市町村	その他 ( )	
事業名	道路改築事業 (市町村合併支援事業)		地区名等	むつ恐山公園大畑線 葉色沢	市町村名	むつ市	
事業方法	国庫補助	県単独	財源・負担区分	国	% 県	100 % 市町村 % その他 %	
採択年度	平成 13 年度 ( 用地着手 平成 17 年度 / 工事着手 平成 年度 )						
終了予定年度	平成 25 年度 ( 平成 年 月 工期変更 当初計画時 平成 年度 )						
事業目的	<p>・主要地方道むつ恐山公園大畑線は、むつ市市街地を起点とし、恐山を經由しむつ市大畑地区にいたる延長約 4.0 . 6 km の道路である。</p> <p>本路線は、むつ市と合併した旧大畑町を連絡するとともに霊山恐山の祭などに毎年多くの参拝客が訪れるなど観光路線としても重要な路線である。しかしながら葉色沢地区は、降雨によりしばしば冠水し通行止めになるなど、安全な交通確保が求められていることから、3 種 3 級、設計速度 60 km / h の規格で道路改良を実施している。</p>						
主な内容	区 分		当初計画時	再評価時	増 減		
	計画延長		860 m	860 m	0 m		
	計画幅員		6.0(9.0) m	6.0(9.0) m	0 m		
	改良工		890 m	890 m	0 m		
	舗装工		5,340 m	5,340 m	0 m		
・事業計画については、当初計画時と変更はない。							
事業費	○当初計画時総事業費 550 百万円 ( 単位 : 百万円 )						
		~19年度	20年度	21年度	22年度	小 計	23年度~ 合 計
	計 画 (うち用地費)	( )	( )	( )	( )	423 ( 12 )	127 ( 4 ) ( 16 )
	実 績 (うち用地費)	31 ( 0 )	8 ( 0 )	19 ( 0 )	117 ( 16 )	175 ( 16 )	375 ( 0 ) ( 16 )

## 2 評価指標及び項目別評価

### (1) 事業の進捗状況

(A) ・ B ・ C

事業の進捗状況			計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
	事業費割合 (うち用地費)		31.8 % [ / ] ( 100 % ) [ / ]	41.4 % [ / ] ( 133.3 % ) [ / ]
	主要工種 毎割合 (事業費)	改良工 ( 500百万円 )	35 %	45 %
		舗装工 ( 50百万円 )	0.0 %	0 %
説 明	・当該工区は、国有林野内であることから森林管理局から国有林を買受ける必要があるが、これについては協議が整っている。			
問題点・ 解決見込み	・事業を進めるに当たっての阻害要因は無く、順調に事業の進捗を図ることが出来る。			
事業効果 発現状況	( 部分供用なし )			

## (2) 社会経済情勢の変化

(A)・B・C

社会的評価	全国・本県における評価	【全国の評価】 ・平成21年3月に閣議決定された「社会資本整備重点計画」では、地域社会の活力を維持し、豊かな暮らしを実現するため、また、安全で信頼性の高い社会の実現を図るために、選択と集中の方針の下、重点的・効率的に道路整備を図ることが必要とされている。	【県内の評価】 ・公共交通機関が未整備である本県にとって、自動車を主とする交通に頼らざるを得ない状況であるが、県内の道路は未整備区間が多く、さらに豪雪地帯であるため、冬季の安全確保や社会基盤整備としての道路整備に対する要望は多い。
	当地区における評価	・下北半島は、半島内地域を連絡する道路が海岸部を走る国道に大きく依存している。しかしながらこれらの国道は海岸沿いの地形条件の厳しい地域を通過することから波浪等の気象条件の影響を受けやすくこれまでしばしば通行止めが発生している。当該路線はこれらの代替路線であることから原子力施設の立地する下北半島の緊急時の代替道路として重要性が増している。	
必要性	・本路線は県管理道路であるため、青森県が事業主体となっていく必要がある。 ・本路線は、大間原子力発電所の緊急避難道路である、国道279号の通行止めが発生した場合の代替道路である。		a. b
適時性	・大間町で建設中の大間原子力発電所は平成23年4月運用開始を目指していることから、避難路の代替路線である本路線の早期整備が必要である。		a. b
地元の推進体制等	・下北総合開発期成同盟会から避難路の整備について要望されている。		a. b
効率性	・本路線の整備により、降雨時における路面冠水による通行止めが解消され安全で円滑な交通が確保される。		

## (3) 費用対効果分析の要因変化

(A)・B・C

区分	主な項目	当初計画時	再評価時	増減
費用項目 (C)	(1)事業費	百万円	506 百万円	- 百万円
	(2)維持管理費	百万円	63 百万円	- 百万円
	(3)	百万円	百万円	- 百万円
	(4)	百万円	百万円	- 百万円
	(5)	百万円	百万円	- 百万円
	総費用	- 百万円	569 百万円	- 百万円
便益項目	(1)走行時間短縮便益	百万円	192 百万円	- 百万円
	(2)走行費用減少便益	百万円	10 百万円	- 百万円
	(3)交通事故減少便益	百万円	0 百万円	- 百万円
	(4)冬期便益	百万円	86 百万円	- 百万円
	(5)防災便益	百万円	569 百万円	- 百万円
	総便益(B)	- 百万円	857 百万円	- 百万円
	地域修正係数( )	-	1.438	
	修正総便益(B')	- 百万円	1,232 百万円	- 百万円
費用便益比	費用便益比(B/C)		1.51	
	修正費用便益比(B'/C')	-	2.17	
費用対効果分析 (B/C)	【費用対効果分析手法】(分析手法、根拠マニュアル等) ・費用便益分析マニュアル(平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局) ・道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱(平成22年3月 青森県 県土整備部 道路課)			a. b
計画時との比較	【計画時との比較における要因変化】 ・当該工区は、県単独事業であることから事業着手時点において費用対効果分析は実施していなかったが、今回新たに費用分析を実施し再評価を行うものである。			a. b

## (4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A)・B・C

コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 ・路盤材・舗装材に再生材を使用し、経費の縮減を図ることとしている。 ・排水施設等の小規模構造物については極力、工場製品を使用し、工期の短縮及び経費の縮減を図っている。	a. b
代替案	【代替案の検討状況】 ・比較ルートとしてはバイパス案も考えられるが、背後地に山林と河川を抱え大規模な土工や橋梁が必要となることから、経済的に最も安価な現道拡幅案である実施中のルートが最適である。	a. b

## (5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A)・B・C

住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 ・むつ市から早期整備が重点要望されている。	【住民ニーズ・意見】 ・むつ市大畑地区住民から安全な道路整備が求められている。	a. b
環境影響への配慮	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 配慮している 配慮していない (2)区分 農林地等の緑地や植生の改変 地形や地盤の改変 水系や水辺の変更 海域環境の変更 敷地整備段階での重機の使用 土砂等の搬出・搬入 廃棄物処理等 道路(車歩道)、雨水排水路の設置 基礎や地下建造物の建設 低層建築物の建設 高層建築物・大規模施設等の建設 高架構造物の建設 海底・海中建造物の設置や建設 (3)対応内容 ・切土または盛土により植生等を改変する場合は、張芝等により緑化を行い代替措置を講じている。 ・低騒音・低振動仕様の重機を使用している。 ・産業廃棄物は再資源化施設へ搬入し、リサイクルに努めている。		a. b
地域の立地特性	・当該地域は、過疎地域、豪雪地帯、積雪寒冷特別地域及び半島振興地域に指定されている。 ・むつ市は、平成17年に下北半島との3町村と合併しており当該地区の整備により大畑地区とむつ市街地との連携が強化される。 ・本路線は、霊山恐山への参拝道であることから数多くの参拝者が大祭時に訪れている。		

## 3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続	計画変更	中止	休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	・全ての項目が「A」評価である他、冠水による交通障害を防止し安全・安心な道路環境を整備する必要があることから、対応方針を「継続」とした。			
備考				

## 4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり	対応方針(案)を修正すべき		
委員会評価	継続	計画変更	中止	休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見	(附帯意見がある場合に記載)			
評価理由	(委員会意見が「対応方針(案)を修正すべき」の場合に記載)			